

	<h1>号外</h1>	定価 1部2円 発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合	No.号外6 2021年 12月23日	普及・家保体制は 継続課題に。職場 改善に向けた基本 姿勢を確認。引き 続き課題を集約 し、改善求めよう。
	昭和34年4月1日 第3種郵便物認可			

2021評協議会交渉⑥ 12.22普及・家保課題/農林水産企画室長交渉

普及職 定数増は体制強化努力する 厳しいが… 体制強化努力する 人材育成 新技術への対策進める/環境改善 予算確保努める

県職労では、各農業改良普及センターにおける職場実態討論を経て、農林水産部長あて要請書を作成。併せて、家畜保健衛生所の体制強化の要請書も作成した。12月22日に大畑農林水産企画室長に手交し、基本姿勢を確認すべく、交渉を行った。主な交渉結果は次のとおり。



普及要請書を大畑室長に手交 (千葉 (美) 中執・中央)



実態を訴える交渉団

【交渉結果】

①普及体制強化は「作目別の複数人配置は人材育成上重要。しかし、定数増は難しい (2021年4月時点:204人体制)。若手指導のために組織的に配置を検討し、各センターの状況を把握して配置に努力する」姿勢を示した。交渉団から、安心して子どもを産み育てられるよう、育休代替職員の配置や職場での配慮を求めた。

②普及員の人材育成は「OJTに加え、今年度から新たな研修体制とした。新技術への対応は長期的スパンを持ちながら研修体制の見直しを進めていく」とした。交渉団から、若手職員の同期の繋がりでの機会確保などの配慮を求めた。③職場環境整備は「毎年一定数の公用車が更新できるよう予算確保に努力。機器整備は優先度を考慮し、予算確保のうえ更新できるよう努力」「ICT環境整備は国事業の活用や、関係課と協議の上対応」とした。

家保体制 処遇改善契機に体制強化進める

家保体制改善は「組合の力も借り、獣医師の初任給調整手当改善が実現。引き続き産業動物の獣医師確保を進める」としたが、委細は継続課題のまま。

農林水産部から改善に向けた基本姿勢を引き出すも、人員体制の拡充をはじめ、多くが継続課題となった。大畑室長から、「組合からも知恵をいただきながら改善に向け努力していく」とし、継続課題とした。引き続き、各職場課題を集約し、改善を求めていく



見解示す大畑室長

(主な交渉結果は裏面)。

1 普及センターの職員体制

(農水室長) 作目別の複数配置は職員育成や業務遂行の視点で必要。一方、定数増は難しい。若手普及職員の育成に向け組織的に取り組む。作目別の配置数はセンターの要望や各所の状況を十分に把握し、配置は努力していく



育児代替確保を(千葉(美)中執)

(2021年4月時点定数:204人)。

(県職労) 育休代替職員の確保は引き続き要請する。特にも子どもを設ける家族計画が業務都合でできない状況となるのは問題と認識。職員配置に当たっての配慮と所属長への理解醸成を要請する。

(農水室長) 育休課題はその通り。家族計画が尊重されるような職員の働き方となる必要があるし、そのために所属長の理解が必要と認識。具体的な課題が生じた場合には情報提供して欲しい。



回答する大畑室長(右)

2 普及員の人材育成策・年齢バランス踏まえた人員配置

(農水室長) 職場でのOJTによる人材育成もあり、普及指導員の合格率は高率を維持。組織的な取り組みの成果が出ている。スマート農業の新技术対応のため、2021年度から新たな研修体系にした。引き続き生産者のニーズを踏まえた技術普及に向けて、長いスパンの中で、情勢変化を踏まえて研修は見直しを進めていく。人員は職員育成を重視して配置に努力。年齢構成の課題はあるが、ジョブローテーションによる人事配置に努めていく。組織として廻るように可能な限り年齢バランスを考慮。

(県職労) 農林水産部の若手研修に当たり、若手職員間の横のつながりの確保を。

(農水室長) 部長からも横のつながりの視点を意識するよう指示を受けている、取り組みを進める。



若手研修充実を(盛岡・高橋さん)

3 農業普及業務の環境整備 (ICT環境・公用車・機器類整備)

(農水室長) ICT環境の整備に向け、タブレット端末の配備を進めてきたし、研修を受ける環境も整備。ICT技術の環境は国庫事業も活用しながら整備を進める。また、単独公所の回線環境改善は行政経営推進課と相談する。公用車は、毎年度、一定の台数が更新できるよう予算確保に努力。機器整備は、緊急度・優先度を考慮して予算確保し、更新できるよう努力。

(県職労) 業務で必要な機会が増加するも、環境が追い付いていない。引き続き改善を。

家畜保健衛生所の体制強化

(農水室長) 豚熱、鳥インフル対応に従事する獣医師に感謝。獣医師確保に向け、これまでの県職労の運動も相まって、2022年4月から初任給調整手当の改善が実現した。産業動物関係を志望する獣医師確保は厳しく、必要数を確保できていない。これまでも修学資金貸付制度の見直しなども進めてきた。また、家保にはインターンシップの受け入れなどに尽力されてきたことにも感謝する。引き続き、部として総務部に対して獣医師確保に向けた対策を求めていく。

(県職労) 獣医師確保対策は喫緊の課題であり、引き続き積極的な対応を要請する。獣医師の定着に向けた様々な環境改善も要請書に記載。県北家保では通勤負担が相当であり、かつ、各家保でも担当エリアが広く職員負担が大きい。各家保で従事している獣医師の環境改善に向けた努力を要請する。